

(件名) 錦江湾活性化とドルフィンポート跡地の活用方について

(陳情の要旨)

私たちはドルフィンポート跡地の活用方について、県民の声を県政に届けるべく1月30日に県民交流センターにて第1回の「ドルフィンポート跡地を活かすアイデアを語る会」を開きました。県民が自由に参加できるオープンの会で、およそ30人が参加し国会議員・県議会議員・鹿児島市議会議員なども参加され、熱心な発表がなされました。この会の諸意見をまとめて、2月7日に県議会の田之上耕三議長に届けましたところ、まことに誠実に耳を傾けていただきました。

2月9日には第2回の語る会を開き、船の上からドルフィンポート跡を眺めながら意見を述べ合いました。田之上議長・県議会議員・鹿児島市議会議員なども参加され、県民の声を聞いていただきました。

今回は3月13日にドルフィンポート跡地で、車座の語る会を開く予定ですが、同会だけでなく、ほぼ毎日のように有志が集まり、意見交換会・あるいはウォーターフロントの先進地の情報を学ぶ会などを行っています。

そこで今までに出された多くの提言を集約して、ドルフィンポート跡地の活用方に採用していただきたく、以上の趣旨に基づき、下記事項を陳情します。

記

1. ドルフィンポート跡は、鹿児島のシンボルの桜島を最も身近に眺望できる場所なので、運動施設に限定する前に、いろいろな角度で活用方を検討したほうがよい。

世界があこがれるような魅力ある場所なので、錦江湾と一体になったウォーターフロントのマスタープランをつくるべきだ。そのためには内外の一流の都市計画家によるコンペティションを行い、それを検討委員会が検討し、県民の意見も十分に取り入れるべきだ。

2. 錦江湾の風景はもとより自然環境も世界的な価値を持っている。鹿児島市及び県の観光にとって、新しい未来を開くためには、錦江湾を活用する以外にない。

ドルフィンポート跡は錦江湾と直接面しているので、ここに湾内の小型クルーズ船(釣り船を含む)錦江湾観光の出入り口となるターミナルをつくる最適地である。

3. ドルフィンポート跡は市街地にも、既存の観光地にも近いので、今後の発展のための大規模な中継地にもなれる。単なる中継地ではなく、新しい鹿児島観光のセンターとなる文化・歴史を含めた観光施設をつくる。

4. ドルフィンポート跡は将来の可能性を開ける場所である。マリナーのクルーズ船乗客を短時間に船で運ぶこと、新幹線や航空路による観光客をここに誘致すること等によって錦江湾観光とつなげられる。

錦江湾観光ルートの開発によって大隅半島・湾奥・ドルフィンポート跡に錦江湾の全域的な観光の拠点施設をつくるべきだ。

5. ドルフィンポート跡の活用について、県当局は運動施設に限定する前に、県民の声を直接聞く場と機会を設け、また経済界や文化界など各方面の声を聞く場と機会を設け県知事自らがそこに出かけて、自らの構想を説明し、多角的な幅広い意見を聴取していただきたい。

以上